

進学 Now!

石橋高校
進路指導部
保護者版 1月

2022. 1

1 はじめに

大変寒い日が続き、オミクロン株の感染も拡大している昨今ですが、皆様お変わりありませんか？ 外出もはばかれるような状況の中ではありますが、3年生は受験本番に向けて最後の追い込みに入っています。1・2年生も来年度の新学年に向けて、文理選択やコース選択に向き合っております。

月日が経過するのは誠に早く、2021年もあっという間に過ぎていきましたが、2022年も時間の経過スピードは同じです。あっという間に季節が変わり、学年が進行して行きます。

保護者の皆様には、学校の指導内容をご理解の上、適切な時期にお子様と話し合う時間を持っていただき、意思の疎通を図っていただければ幸いです。よろしくお願いします。

2 共通テストの結果および2022年度入試の傾向について

2年目を迎えた「大学入学共通テスト」ですが、昨年度からの予想通り、今回は数学を中心に大幅に難化しました。全国的な集計でも、文理ともに－50点前後の成績となっており、大手受験予備校やベネッセ・河合塾の集計でも文系で－44～46点、理系で－59点程度の下降予想が出されております。

本校の結果を見ますと、下げ幅は緩やかで、文理とも全国の下降率よりも低く、生徒達の奮闘ぶりがうかがえます。また、教科によっては、平均点が県内最高をマークした科目もあり、3年生諸君の努力の成果が見られた試験となりました。

一方、入試全般の傾向を見ますと少子化の影響が大きく出ており、18歳人口が約2万人も減少しているため、大学志願者数も大きく減少し、難易度が変化してきております。また、コロナ禍の影響も徐々に大きくなってきており、発表されている私立大学の志願者数も、MARCHクラスであっても大きく減少してきております。(昨年比 70%～80%)

学部別の状況は、昨年に引き続き「社会・国際系」「外国語系」が大幅に減少し、「教育」も大幅に志望者を減らしています。これは、コロナ禍の影響で海外留学や国際的な活動が制限されていることに起因します。また、教育は、少子化の影響により、学部自体が再編され、定員も減少しているにもかかわらず、人気下がっています。

さらに、国公立大学の後期日程の募集学生数も昨年比 92%となり、後期の押さえ方が難しくなっています。

全体的な傾向としては、平均点の下降により安全志向の出願が多くなる見込みであり、コロナ不況もあってか、地方国公立大学への学生集中が予想されています。また、不景気には理系人気が高まる傾向であり、昨年同様に「文低理高」の人気傾向が強くと予想されます。

コロナ感染者が増加すると、昨年同様に東京中心部の大学への受験者が減少することも予想され、社会的な環境によって、受験生が大きく振り回される心配もあります。

「これまでに無い特別な1年」と位置づけ、従前の常識に縛られず、状況を冷静に判断して生徒の受験指導を行っていく必要があるかと思います。難しい選択とはなりますが、保護者の皆様も正確な情報を捉えてご指導いただきますようお願い申し上げます。

3 2年生の進路指導について

2年生は、大学入試まであと1年となり、先輩の姿がとても気になる時期となりました。外部模擬試験も数が多くなり、しかも5教科型の受験となっているため、学習時間が大幅に増えてきていると思います。部活動においても中心的な役割を担う時期となり、多忙な毎日が続いていることと推察いたします。

3学年を迎えるに当たり、「国公立コース」と「私立コース」のコース選択をすることになりますが、この選択によって、選べる大学の数や選択肢が大きく変わりますので、様々な状況を考え合わせ、十分にご検討の上、選択してください。

また、感染の拡大がさらに広がると、オンラインによる授業が始まる可能性もありますので、ご家庭においても心の準備をお願い致します。

2年間にわたり、オープンキャンパスや模擬授業などの大学情報を直接集める機会が失われていますので、大学入試に必要な情報が不足している可能性があります。お子さんと共にネット環境を利用した情報の収集と家族の情報共有の時間を十分に取っていただけますようお願い申し上げます。

4 1年生の進路指導について

1年生は、先日初めて校内実力テストを「5教科型」で受験しました。高校生としての学習を全体的に見つめ直す良い機会になったと思います。受験はその何倍も準備が必要です。今回の経験をもとに、家庭での過ごし方を見直してもらいたいと思います。また、「大学入学共通テスト」をはじめとする、近年の大学入試問題の変化を肌で感じてもらいたいと思います。

受験科目は「国語」「数学」「英語」などと言う名称で案内されていますが、従前と異なり、設問の傾向が大きく変化してきています。「芸術」や「家庭」「保健体育」などの授業で学んだことや「理科」「地歴・公民科」の学習で学んだ基礎的な学習内容が、「英数国」などの試験問題に盛り込まれて総合的に思考・判断する入試が始まっています。「総合型選抜(旧AO入試)」や「学校推薦型選抜(旧推薦入試)」においても、試験を課することが義務づけられ、設問に対する解答をプレゼンテーションする能力も求められてきています。

このような傾向は、2年生よりも1年生の方が強く求められてきます。総合的な学力と学びを融合して考える力、表現する力が必要になってきています。座学で静かに学び、ペーパーテストができれば合格できる入試とはひと味もふた味も違うハードルが用意されていますので、安易な進路選択に走らず、生徒本人の持つ様々な能力を活かしていただけますようお願い申し上げます。

将来の予測が大変難しい時代となり、コロナ感染も依然として心配な状況ではございますが、何よりも大切なことは、正確な情報収集と家族の話し合い(コミュニケーション)であると思います。よろしくお願いします。

5 終わりに

進路指導は、将来の選択でもあり、受験はそのための通過点です。受験のためだけに学ぶのではなく、将来に生きる学びを目指してほしいと願っております。また進路指導部も生徒達のその前向きな学びを心から支援していきたいと思っております。

やりたい活動に思い切り取組みながら大切な青春のひとときを謳歌し、そして最後に受験のハードルも軽快に越えて行く、そんな石高スタイルは、本当に素晴らしいと思いますし、そんな生徒諸君は、とても輝いていると思います。今後とも本校の進路指導に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

石橋高校 進路指導部